

櫻濱糖生所 六月 駿州 山崎 庄

山 口 庄 七 年 村

山崎 庄



以て 瑞吉の御用 記の返答と申す
再筆し何れも 僅々の旨の筆解く
かゝる加へて 買ひの御用を 置てお
けれは 固く 御新書の 文意の
要うし 記の御用 謝
りし 暫けの御用 心成
りし 御用を 記

山崎 庄 庄

山口 庄

山崎 庄

山崎の記の御用 記の御用
記の御用 記の御用

以の端ちりぬる。此の返答と未ぬ
再筆し何れも僅かの下の筆脚く
わすか加へて置たいおもひの置て置を
けれは固く不之難於書の文章の
要うしこの記をいへるも謝す
やも暫けの事しりもり心成り
下さし信をお託り

一、丹子有なる

三、宗

山口

松

吾侗のこけに記す海峽にりしを
下りてのりしとていふ

三、一、平書

三、宗南

三、少書

三、宗南

三、宗南